

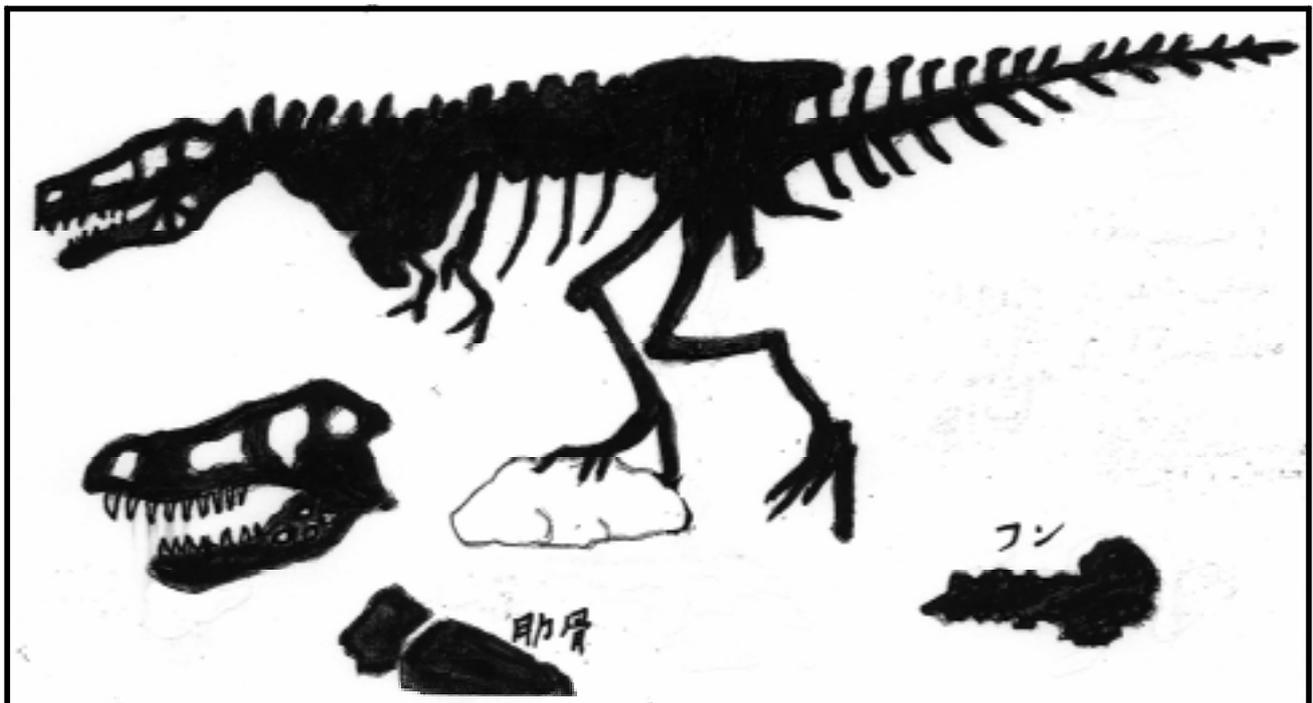


自然観察

No. 76
2005
9月

目次

・成熟社会に向かってウォーキング	2
・観察会事故対策諸注意事項と対応について	3
・表紙スケッチのコメント	3
・絶滅したチョウザメの生態と再生の可能性 第2回	4
・第16回 滝野の自然に親しむ集い実施報告	5
・第16回 滝野の自然に親しむ集いアンケートまとめ	6
・フィールドニュース 千歳市 栗山町 新得町	7
帯広市 江別市	8
・ウォッチングレポート	9
・参加者の声	12
・参加者の声 2	8
・ウォッチングプラン	13
・事務局だより 理事会だより	14
緊急連絡先他	14



「来年も必ず参加します。今日は本当にありがとう。楽しかったです」と昨年、地域の福祉行事『森へ行こうよ』のバスを降りて、私の手をしっかりと握ってくれたNさんが、今年の冬に亡くなりました。享年95歳でした。生前のNさんは、町内会の集まりでは大きな声で若い者を叱咤激励し、バスの中では自作の詩を詠み上げてみんなの志気を鼓舞するなど、良き時代の日本男児ここにあり！といった有名なおじいちゃんでした。その夜Nさんは、いつもの通り元気に床につき、そのまま亡くなられたようです。

最近、高齢者と接すると「丈夫で長生きして、死ぬ時はコロッと死にたい」という人が増えています。介護の課題が社会化すればするほど、当事者は介護サービスを受けない生き方を望むのは当然です。長野県が発祥の地といわれる『PPK(ピンピンコロリン)』なる言葉が高齢者の間に一種のブームになっています。確かに、介護保険を利用する必要のない人生を目指すのは大切なことです。まさしくNさんの人生はPPKそのものといえましょう。

昨年から、福祉のまち推進センターの方々と、ひとり暮らしの高齢者に対しての『声かけ運動』を実施していますが、そこでとても気になることがあります。それは、彼らの食生活の貧しさです。食材を買ってきて料理しても、美味しいねといってくれる人もなく、ひとりで食べる食事は、寂しく味気ないものです。次第に料理をする気力がなくなることも確かでしょう。そんな時、すぐ思いつくのは『コンビニ弁当』です。

近くのアパートに住む目の不自由なTさん(78歳)は、言うようにして100mほど離れたコンビニに行き、買ってきた弁当を2回に分けて食べ、それで一日の食事としているようです。「いろんな弁当があるので、飽きないよ」といっていますが、味は一般に濃いめだし、油ものが多く野菜が不足している。そんな食事を続けていると、栄養が偏り、体力が落ちてくる。すると、外に出たがらず、人と逢うのも面倒になり、老人うつ病になっていく。事実、Tさんは最近、私が訪ねていっても、以前ほど弾んだ調子で話をしなくなってきました。そうしているうちに、寝たり起きたりの生活になり、だれも気がつかないうちに孤独死してしまうことになる。こういった悪い循環を断ち切るにはどうしたらよいのでしょうか。私は、彼らを何とかして外に連れ出すことから始めたいと考えています。

健康維持には、ウォーキングはとても効果的といわれていますが、ただ、ウォーキングのためのウォーキングであるなら、長続きしないのではないのでしょうか。何か楽しい活動としてのウォーキングで、その結果、前述の悪い循環を断ち切ることができれば素晴らしいことだ。各高齢者がそんなライフ・スタイルをつくるのを手助けをするのが、地域福祉の役割ではないか。そう考えて、4年前に『楽しい森の散策会～森へ行こうよ！～』を立ち上げました。

これは、深い森の中を、自然観察指導員の解説を聞きながら、ゆっくりと歩くというものです。森の中を歩けば、脳ホルモンも活性化し森林浴にもなります。最近はずっかり評判になり、独居で65歳以上の人という参加条件なのに、年を偽る人や夫婦で参加する人などが出る始末です。ようやく道も「森林セラピー」の効用をみとめ、今年、重い腰を上げて研究会を発足させたようです。森林公園を歩くグループをつかった老人クラブもあると聞いています。

これで元気になった高齢者は、つぎの段階として、できる範囲で社会復帰をしてもらう計画や独居老人のための簡単レシピの作成等を進めています。



楽しい森の散策会

高齢化とともに叫ばれているのは少子化です。このままでは次第に日本の人口は減っていき、社会の仕組みの面では厳しくなっていくでしょう。ただ、これだけ機械化がすすんでいるのですから、人間の肉体的な貢献度は確実に減少しています。そこでは、人間の知恵や心のエネルギーの重要性が、より増してきます。それを多く持っているのはいうまでもなく高齢者で、彼らの知恵がもっと社会に生かされなければなりません。でも、体が弱って気力をなくしているようでは、折角の知恵も生かされないでしょう。

介護保険は早くも破たん状態であり、医療費はますます増大して国家財政を圧迫し続けています。これを打破する方法はただ一つ。「病気になったら医者にかかる」「具合が悪い時は薬を飲む」という医療依存の意識を速急に改めることです。それには、高齢者はすべて食生活を整え、外に出て歩くこと。そして行政には、一方では十分な介護の手だてを講じながら、他方では介護を必要としない元気な高齢者を増やしていく方策の構築が望まれます。

昔から「一病息災」といわれてきましたが、これほどの高齢社会となつては「多病息災」。病気になっても、自分で健康的な生活管理をしっかりとやって、病気と共存・共生をしながら、持てる知恵を社会のために役立てる。そうなった時の日本の社会は、高齢社会とはいわずに『成熟社会』というべきでしょう。

成熟社会を目指して、自分の立場できちんとやるべきことをやっていきたいと考える今日この頃です。

観察会事故対策諸注意事項と対応について

観察会事故対策の諸注意事項、対応の事項、保険関係書類の取り扱いなどについて、理事会で検討しました。諸注意事項を良く読んで万々に備えて下さい。
事務局

< 事故対策諸注意事項と対応 >

当日の救急指定病院を必ず確認をしておきましょう。

携帯電話所有の指導員は観察会開催時に携帯電話を必ず所持しましょう。

- 1 傷病者が発生した時には、本人の症状をまず確認し応急手当や救急車、病院搬送などの対応をして下さい。
- 2 家族への連絡も忘れないで取るようにしましょう。
- 3 スズメバチに刺されたり、転倒（特に頭）、捻挫や骨折の疑いある時には、負傷者が希望しない場合でも病院へ搬送しましょう。

基本的な応急処置を救急救命講習会などから身に付けておきましょう。

スズメバチに刺されたときの応急処置
(観察会カードより)

- ・ 2次攻撃をさけるためその場から遠ざかりましょう。
- ・ 傷口をつまんで毒液を絞り出すように水で洗います。ミネラルウォーター、麦茶でもよいです。
- ・ 患部を冷やします。(抗ヒスタミン剤含有ステロイド軟膏を塗るとよいです)
- ・ 早く医師の診断を受けさせましょう。(2度目の時は危険度が大きいです)

- 1 傷病者や観察会参加者への指導員の仕事分担を決め、他の観察会参加者に不安を与えないように説明をしましょう。
- 2 天候・道程・距離などを考慮して、観察会中止や続行の場合に応じて決めます。

事務局へ事故発生を知らせて下さい。

- 1 事務局が保険会社へ事故発生申告をします。
- 2 保険会社から保険金請求書類が届けられます。

傷病者へ次のことをお知らせ下さい。

- ・ 被保険者(傷病者)が治癒後必要書類を整えて、保険会社に保険金を請求すること。
- ・ 保険金請求に病院の診察券・治療費支払いのレシートのコピーが必要なこと。

- 1 保険会社から届いた保険請求に必要な書類は、連絡先指導員へお渡しします。
- 2 傷害事故届出証明書・現認証明書に連絡先指導員が記入して他の書類と一緒に被保険者(傷病者)へお渡し下さい。
- ・ 個人情報保護を考慮し、被保険者(負傷者)には参加者名簿のコピーを渡さず、上の方法をとります。
- ・ 保険会社から参加者名簿コピーの請求があった場合は事務局が送ります。

表紙スケッチのコメント

八木 健三

さる 6月、国立科学博物館で開催された [恐竜博2005] に、世界最大の [恐竜 ティラノサウルス] が展示された。

1990年米国の南ダコタ州の白亜紀層から発掘されたもので、体長12.8m。

前肢が退化し、後肢が巨大となり、2本足で走り廻った。

その一方で鱗が羽毛にかわり、鳥類への進化が行われたのである。

河川域での生息環境と制限要因

産卵期：生物にとって産卵・孵化の時期は極めて脆弱で、環境変化の影響を受けやすいようです。したがってこの時期にダメージを受けると、種は絶滅の危機に瀕します。ミドリチョウザメの場合、産卵場は早い流れの深い淵(3m 以上)と大礫が必要とされ、そこに卵をばら撒きます。

幼魚期：藻類や水生動物、小魚を食べながら下流に移動します。餌動物としてはエビ、ヨコエビ類、小魚、軟体動物を食べるようです(写真2)。流速は幼魚の生残を決定づける要因として重要で、灌漑や水力発電による水量の減少は瀬や淵を減少させ、さらに農地から流出する農薬などの化学物質も生理的な障害を与える可能性が高まります。また水温条件も重要で、20 以上の水温は致死的といわれています。



写真 2 シロチョウザメの幼生

親魚期：成熟する個体はオスで15年生以上、メスは20年生以上とされ、産卵のため河川を遡上してきますが、必要とされる生息場として緩やかで水深が深い場所で、具体的にはワンド状の地形や三日月湖などは重要な生息場となります。

河口域の生息場の重要性

ミドリチョウザメは下流に降りしばらく河口域で生活し、海水になじんで海洋生活を始めます。また成魚も河口や湾内で季節的に大きな群れをつくる場合があることが報告されています(図 1)。河口域は陸域から豊富な栄養分が流下する場所であり、そこには多様な底生動物群集が生息しています。河口域で捕獲されたチョウザメの若齢魚や成魚の胃の中から多くの甲殻類(ヨコエビ類、アミ

類、カニ類)、多毛類、ハマグリ、等脚類などが観察され、イワシなどの小魚も食べるようです³⁾。

チョウザメ再生への方向性

ミカドチョウザメを復元するためには、まず卵と稚魚をどのように確保するかが最も重要な問題ですが、これはすでに北電総研⁴⁾などで親魚の飼育研究が行われており、私はその専門家ではないのでここでは省かせていただきます。そこでミカドチョウザメの稚魚を再生産し河川に放流したと仮定した場合、その生息環境をどのように整えたらよいかについて検討してみました。

最初に問題となるのは、稚魚が淡水期に過ごす場所の環境保全です。石狩川の場合、ミカドチョウザメが遡上して産卵する場所は赤平市付近のサメ淵¹⁾とします(写真3)と、ここから発生した幼生は、中流域の砂川、美唄、岩見沢市周辺を利用しつつ2年程度河川生活を送り30~75cm に成長したと考えられます。こうした幼魚が生息できる多様な流れ、餌生物、そして水深を確保することが重要です。とくに越冬期は全ての動物類にとって厳しい生息条件となり、川の表面は結氷してしまう場合が多いのですが、こうした条件下で生息できるゆるい流れの深い淵は必要不可欠でしょう。



写真 3 空知川にあるサメ淵

次に、チョウザメは海洋に出る前、河口域にしばらく滞留する可能性が指摘されています。石狩川では塩水は江別市あたりまで遡上しますが、江別の語源であるアイヌ名はチョウザメのいる川という説もあり、降下したミカドチョウザメは海水になじむため江別から下流、河口部までを利用し

て生活した可能性が考えられます。しかし江別市から下流、河口域にかけては大正期に河川改修でショ-トカットされ大幅に生息場が狭くなっている場所でもあり、広い面積をもつ河口の生息場を再生することが課題となります。

3点目として産卵のために遡上してくる親魚の生息場を確保することが重要です。石狩川中流域の三日月湖にはカラス貝が多く生息しており、美幌市(旧沼貝村、アイヌ名ピパオイ=カラス貝が多いところ)の語源になっているほどです。親魚はこうした餌を利用しながら、中流域を遡上していった可能性が考えられます。現在、旧川や三日月湖の殆どは埋め立てられたり主流路と切り離され孤立していますが、それらを主流路と再連結させたり、餌となるカラス貝類を再生することが重要となります。そして最後に、産卵のために集まりうる深い淵(*Sturgeon hole*)の形成と、産卵ができる礫質の確保が重要です。

以上のような全生活史を完結させるまでには10~20年という時間を要し、長期にわたる計画と実行が必要となります。しかし全く不可能というわけではなく、中国の揚子江では絶滅に瀕したチョウザメを保護増殖に成功した例が知られていま

す。北海道唯一の大河にチョウザメの姿が戻り、悠然と泳ぐ姿は限りないロマンを感じさせてくれます。現在氷河時代に絶滅してしまったマンモスを復元しようとする研究が進められてると聞きますが、チョウザメは少なくとも100年前までは北海道に存在しており、今でもロシアには僅かですがその生き残りがいるのです。チョウザメの姿を多くの人を知り、再生する声が高まれば夢は少しづつ現実に近づいてゆくことでしょう。

参考文献

- 1) 阿部晃治(1997)チョウザメ雑考. 魚と水 34: 98-103.
- 2) Beamesderfer R. C.P. and Webb M. A.H. (2002) Green Sturgeon status review information. State Water Contractors, Sacramento, CA, USA. 46pp. (http://www.spcramer.com/reports/pdf/green_sturgeon.pdf)
- 3) California Department of Fish and Game (1995) Fish Species of Special Concern in California, Green Sturgeon. (http://www.dfg.ca.gov/hcpb/species/jsp/more_info.jsp?specy=fish&idNum=75)
- 4) 尾本直孝・前林 衛(2000)北海道近海のチョウザメに関する研究. 北海道電力総研 研究報告 770. 28pp.

第16回 滝野の自然に親しむ集い 実施報告

畑中 嘉輔

実施日	2005年7月30・31日
参加者	42名(14家族うち6家族が北一ター) 指導員17名 ボランティア学生5名 計64名
新聞掲載	道新、朝日、読売、道新むけ、TGAL、グリーンタウン、ウチノグガイド

実施内容の反省

ナイトハイク

- ・蚊にさされる子が結構いた。蚊の対策をもっとしっかりさせてからはいると良かった。
- ・足にけがをしている参加者がいた。コース地形の説明を事前にしておくほうが良かった。
- ・携帯が静かにしている時に突然なり出すと場の雰囲気壊れる。ナイトハイク係が班の連絡係にならないほうがよい。

せせらぎウォッチング

- ・流れがきつかったけどみんな楽しんでた。魚や水生昆虫の収穫もあって良かった。
- ・サンダルの子は不安定なので、靴を履くように言うておくべきだ。
- ・川の中に入り魚を捕ることを知らないでいる親がいるので、着替えを持ってくることをお知らせに入れておく。

炊事(ポークカレー作り)

- ・子供が積極的に参加できるように指導員があまり手を出さないようにした。

虫取り(フリータイム)

- ・草刈りをしないように学園側に頼んでいたのに虫が多かった。

キャンプファイヤー

- ・費用はかかったが、場を盛り上げるために学園の指導者に頼んでおいて良かった。

星空ウォッチング

- ・きれいに星が見えた上、人工衛星まで見えて喜んでた。

自然観察ハイキング

- ・今年は急きょドンガバ村コースになったが去年のコースよりも自然が豊かで良かった。車での移動があるため時間的に余裕がなかった。
- ・次年度からは車での移動は出来るだけ避けるべきである。
- ・今回初めて下見に2回入った、有料でも必要だし、これからも実施の方向でいきたい。
- ・長袖、長ズボン、白っぽい上着など服装の指示をしておくといい。

受付

- ・受付名簿に、大人、子供の区別があると便利なので次回から工夫すると良い。
- ・一般参加者に振込後の連絡が必要と思われる。(食事数を報告する前にコンタクトをとる。)

第16回滝野の自然に親しむ集い アンケートまとめ

【子ども用】 回答24 / 24参加

- キャンプで、いちばんおもしろかったのは？
 - ・カレー作り 12
 - ・キャンプファイヤー 9
 - ・ナイトハイク 4
 - ・せせらぎウォッチング 9
 - ・星空ウォッチング 6
 - ・おさんぽビンゴ 4
- 発見したことやおどろいたことは何ですか？
 - ・せせらぎウォッチングで大きな魚をつかまえた。 3
 - ・いろいろ見たこともない虫がいた。 2
 - ・クワガタ、カタツムリの小さいのがいた。 2
 - ・おんぶバッタを2回も見た。 1
 - ・蚊がめちゃくちゃいた。 1
 - ・ナイトハイクで暗くした。 1
 - ・ヘビトンボの幼虫を捕まえた。 1
 - ・オタマジャクシがいた。 1
 - ・キャンプファイヤーの芸がおもしろい。 1
 - ・なかった。 8
- 何かこまったことはありませんでしたか？
 - ・スズメバチがいた。 1
 - ・トイレの泡があふれてこまった。 1
 - ・蚊にさされた。 1
 - ・ニンジンのかわむきがむずかしい。 1
- 起床時間がばらばらなのできちんとしてほしい。 1
- ・なかった。 15
- わからなかったことは何ですか？
 - ・ねぶくろの使い方。 1
 - ・星空ウォッチングの懐中電灯の光がよく見えなくてわからなかった。 1
 - ・どこにならばいいのかわからないときがあった。 1
 - ・セミがどこの木にいるのか。 1
 - ・セミの声を聞いてセミの種類を当てること。 1
 - ・なかった。 16
- 何かいやなことがありましたか、それはどんなこと？
 - ・つかまえた魚がにげちゃったこと。 2
 - ・小さい子が夜さわいでいた。 1
 - ・自由時間がもうちょっとほしかった。 1
 - ・八工がたくさんいていやだった。 1
 - ・なかった。 16
- らいねんもさんかしたいですか？
 - ・ぜひ参加したい。 13
 - ・できたら参加したい。 9
 - ・参加したくない。 1

【おとな用】 回答18 / 18参加

- 滝野の集いをどこで知りましたか？
 - ・新聞紙上で（道新 3 わけ 1） 4
 - ・ダイレクトメール 2
 - ・年間予定表 5
 - ・ウォッチングガイド 2
 - ・PRちらし 1
 - ・家族、友人の紹介 3
 - ・TGAL 1
- 今まで自然観察会などの行事に参加したことは？
 - ・ある 11
 - ・ない 7
- 2であると答えた方は、どのような行事ですか？
 - ・自然観察会 5
 - ・真駒内川川遊び 1
 - ・和叶イワウツギ 1
 - ・探鳥会 3
 - ・ふれあいの森 1
 - ・木の観察 1
- 子どもの頃、どのような自然の遊びをしましたか？
 - ・虫取り 8
 - ・魚釣り 3
 - ・探検ごっこ 2
 - ・草で遊ぶ 2
 - ・川遊び 5
 - ・木の実採り 3
 - ・花の首飾り作り 2
 - ・山登り 2
 - ・ザリガニ採り、セリ摘み、秘密基地、神社で遊ぶ 各1
- 滝野の集いで発見したことや驚いたことは何？
 - ・川で魚が捕れた。 1
 - ・川に棲む生物と種類の多さ。 1
 - ・市内と違い虫がたくさん。 1
 - ・自然観察ハイキングでゼリー状のものがあつた。 1
 - ・ユニークな子どもが多くておもしろかった。 1
 - ・薪割りがこんなに力が必要なものとは知らなかった。 1
 - ・子供の発見をしっかりと取り上げてくれた。 1
 - ・自然観察指導員と学園の人が熱心だった。 1
 - ・小川にも魚が結構いる。 1
 - ・ホタルがいた。 1
 - ・星がたくさん見えた。 1
- 滝野の集いで、一番子どもに良いと感じたことは？
 - ・自主的に炊事などの仕事をした。 1
 - ・ぞうきんがけ、トイレ掃除など今時できない体験。 1
 - ・自分ですることと食事を作る大変さがわかった。 1
 - ・テレビ、ゲームなしの生活でも楽しめることを知る。 1
 - ・部屋の窓を開けられないので暑かった。 1
 - ・川の中に入り魚を捕れたこと。 1
 - ・魚とりの直後に説明があつたこと。 1
 - ・自然とのふれ合いがごく自然にできた。 1
- 汗だくになり自然の中で走り回つたこと。 1
- ・せせらぎウォッチング、キャンプファイヤーの体験。 1
- ・キャンプファイヤーで遊びを交えながらの楽しみ方。 1
- ・年齢の違う子や大人と遊び、手伝いの機会があつた。 1
- ・友達を作つた。 1
- ・指導員の方が親のできなかったことをしてくれた。 1
- 宿泊設備についての感想は？
 - ・思ったより近代的できれい。 3
 - ・また参加したい。 2
 - ・不便な所がよい。 1
 - ・昔の学校の雰囲気が味わえた。 1
 - ・風呂があるのに入れないのが残念。 1
 - ・上履きのままでトイレに出入りが気になつた。 1
- その他、なんでもけっこうですから、参加した感想をナイトハイクについて
 - ・初めてでこわかつたけど不思議な気分を味わいました。 1
 - ・初めての体験でわくわくした。 1
 - ・ゆっくり歩いて足下を照らしてほしい。 1
 - ・暗くしたり静かにする必要性が理解できない。キロロのナイトハイクのほうが足元は子供に良かった。 1
- 自然観察ハイキングについて
 - ・コースの長さがちょうど良い。 1
 - ・服装を長袖、長ズボンにしてくれたら虫さされを気にしないで歩けた。 1
- その他
 - ・初めまして仲良しゲームはもう少し楽しめる内容にしてほしい。 1
 - ・また、紹介の時は家族単位がよい。 1
 - ・指導員が親切でうれしかった。準備が大変だったと思います。ありがとうございます。 1
 - ・スケジュールが過密だった。 1
 - ・キャンプファイヤー、星空ウォッチングがとても楽しかった。 1
 - ・バス乗り場が何番から出るのが不安だった。 1
 - ・毎年やり方が同じです。もう少し若い人の考えがほしい。 1
 - ・子供を引きつけたり楽しませたりする工夫が必要(学園職員のキャンプファイヤーのように)。 1

台風あれこれ

千歳市 今野 善行

平成15年台風10号により支笏湖美笛キャンプ場で倒木による死亡事故が発生。この事故により、林野庁で危険木の調査をし巨木の森を含めキャンプ場の中で76本の危険木を指定し伐採すると報告を受ける。伐採は最小限にして欲しいと要望し、16年5月11日樹木医を交えて再調査の結果32本の本が枝の処理等だけで良いという事になり34本の伐採を決めました。その中に巨木の森にある樹齢350年ぐらいと言われたハリギリの木が要危険木とすることで何とか助かりました。

そして昨年あの台風18号が来襲し支笏湖周辺の木が多なる被害を蒙り、巨木の森そして美笛キャンプ場も沢山の倒木被害が出ました。

危険な木が有るという事で行ってみて心配していた要危険木のハリギリの木が泰然として胸を張り天をついて立っているではありませんか。それを見てホット安心致しました。(再調査の時樹木医がポツリと独り言「この道路が無ければまだまだ大丈夫なのに」と...))

台風18号はもう一つわたしに感激を残していました。今年6月の下旬の事です。千歳市の青葉公園で18号により倒れたホオノキは林の中で見事な花が開いていました。いつも下から見ていた花が、今目の前で花を上から見ています。何とすばらしい事。自然は楽しい。



樹齢約350年と言われる
巨木の森のハリギリ



千歳市青葉公園で倒れても咲く
ホオノキの花

「守る」運動から、「ともに創る」運動へ

栗山町 高橋 慎

1985年夏、栗山町御大師山でのオオムラサキ発見から始まった生息地の雑木林を守る運動は、20年を経た今日、御大師山の後背地の栗山町による24haの購入と町民有志からの50haの寄贈を受け、約100haまで拡大しました。

この間、自然関係団体や教育・街づくり団体との共催によるいろいろな形態での観察会の実施、自然と仲良く暮らすためのミニ講演会やシンポジウムの60回以上の開催、自然カレンダー・絵本・冊子制作、河川事務所・土現・町行政や農業団体との協議や調整など地道に行ってきた。

この活動を経て、現在、街の人達と進めていることは、御大師山の後背地八サンベツの沢地で繰り広げている里山作り20年計画と「ひとつながりの川」としての夕張川再生計画への参加です。河川法改正・土地改良法改正・自然再生法制定等の基本骨格に「環境にどう具体的に配慮するのか。地域の意見を尊重すること」が加わったことは大きい意義があります。今、大切なことは蓄積してきた地域財産としての自然データを自然還元のための提案書にしていくこと、自然再生の方法を河川工学や土木工学・自然生態学の立場からも検討し、共に創り出していく運動を地域の人達と共に進めていることにあると思います。

栗山町の町民が八サンベツ川に手弁当て創った玉石組魚道への熱き思いは、ひとつながりの川として夕張川本流への本格的魚道づくりへと実を結びつつあります。栗山町の里山に、普通の魚や虫たちが再び戻ってきてくれることを願って。

林分施業法を学んで

新得町 高屋 博江

「どろ亀さん」こと高橋延清先生をご存じの方も多いのではと思います。この度私は、その森づくりの手法である「林分施業法」を増毛町で東京大学北海道演習林の先生方から理論や実技を学びました。講義では演習林の概要、自然史、森林面積や蓄積、森に棲む動物等で理解を深めた上で林分施業法の講義がありました。

実技では稚樹刈り出し、除伐等を実践しました。まずその地域やその林分を地質調査し、土地の歴史、植生を知り、どのような森にしていきたいのか、それによってどの木を残し、どの木をい

つ伐採するのか。そして生育・形質の良し悪しのみではなく周囲に与えている影響、森林の遷移を見極めた上で判断されます。

植樹にしても、同じ場所でも地形の変化や樹種特性等により適木の選択の仕方、森の利用目的によっても樹種は変化する事など短期間ではありましたが、内容の濃い講義でした。



除伐林の伐採

林分施業法は、これからの自然と人間にとって望ましい森林づくりの為に、日本のみならず世界各地で応用されていくのではと思っています。

ラリー選手権と自然破壊

帯広市 小野寺 実

十勝の自然豊かな山すその静寂を破るようにラリー・車が猛スピードで林道を走り去る。3年前から開かれているラリーは、今年も9月に「アジアラリー・選手権」が行われる。

そもそも日本の林道は地盤が軟弱であり、周囲には希少種のクマタカやシマフクロウ、そしてナキウサギなどが生息している所。

2年間の実態を見ると、国立公園の一部を走り、多くの道路が破損され、樹木の損傷が目立つ。中にはラリー車のフロントグリルに突き刺さって死んでいる野鳥も見られ、騒音による生物への影響も出ている。

著名な鳥類学者たちの警告声明、自然保護団体の抗議などに対して、一過性の行事だからと、経済的な収益をちらつかせて、関係町村の協力を得て推進しているのが、なんと日本の三大新聞社の一つであるのも驚きである。これに対して住民の中にも怒りを持って、この新聞社の新聞を不買運動にとの声も広がっている。

自然保護が強く叫ばれている今日、これに逆行する行為を新聞社が先頭になって行っている現状を理解頂き、大きな関心を持って欲しい。

身の回りの自然のこと

江別市 渡部 甫

私は草深い山村（忠類村）で生まれました。隣の家との間隔は遠く、しかも草木深く繁っていました。通学路には小さな峠があり、その道端のところどころには車百合が咲いていました。

この時期、七月か八月にしか咲かない花ですが、この花に出会うと見知らぬ街で友人にでも会ったようななつかしさを感じたものです。

それから五十年余り過ぎて、再びこの花に出会いましたが、例えようのないなつかしさと胸が踊るような気がします。私の見る車百合は、一輪、二輪で咲き、その香りも遠くまで伝わって来ようです。私の好きな花はこのほかにもチングルマ、キキョウ、フウロ等があります。

登山の時に見ることの多いこの花達も年々少なくなっていくように思います。このことは、自然現象によるところもあると思いますが、我々登山する者のマナーによるところも十分にあるものと感じています。

知床が、世界遺産に登録したことから、「自然を大切に」と大声を出したいものです。私は、自然観察協議会に入会して、ほとんど活動をしていません。又、残念ながら勉強もしていませんが、いつの日かみなさんに伍して活動をしたいと考えています。



参加者の声 2



札幌市手稲区 星置周辺 (05/6/26)

西区 亀田 容子

初めての参加で植物や水中生物、鳥など50種以上観察できました。前日の雨で中止かな?と思ったら当日は晴天で気持ちのいい風もありました。

川に入るの長靴を履いて星観公園を歩き3ヶ所のポイントで川に入り網でサクラマス(ヤマメ)やヤゴ、トビケラ、カワニナ(タニシに似ている貝)、ヘビトンボの成虫と幼虫(マゴタロウ虫とも言う)を観察できました。指導員の方たちは初心者の方にでもわかりやすく親切に教えて下

さいました。

野草のオオアワダチソウ(茎がツルツル)とセイタカアワダチソウ(茎ザラザラ)の区別の仕方も知り、ブタナ(タンポポモドキ)とブタクサの違い、植物にもオス、メスがある事、トビケラは300種類いる事、その中で6分の1しか解明されていない事、スナヤツメは最大20cmにしかならない事、フクドジョウ(口ひげ6本)をしっかりと近くで観察できた事、川の周辺は帰化植物が多い事、等たくさんの事を知りました。小さい子供の参加もあり楽しい一日でした。

札幌市南区 藻岩山スキー場 05年 4月30日

参加者11名 指導員 3名 曇 朝日、読売

<フクジュソウ・春渡ってくる鳥達>

今年の大雪のため目的のフクジュソウ群落のある藻岩山スキー場へは、立ち入ることが難しく、当日はその下のスキー場駐車場までとした。集合のバス停より約1km強の駐車場までを春の植物、エゾアカガエルの卵の観察、野鳥の観察を主に行い、短いコースと少ない参加者ではあったがゆっくりした観察会が出来たと思う。

問い合わせがあった時、フクジュソウ群落地までは雪でいけない由を説明し、参加は参加者判断をお願いしたいきさつがある。(福地 郁子記)

小樽市 旭展望台付近内 05年 4月30日

参加者29名 指導員 8名 晴 道新(記事)

<スプリングエフェメラルを求めて>

2日前に下見を実施。5名参加。雪が解けていないのでコース変更を決定。

60年ぶりの大雪でアスファルトの道路以外はいたるところに残雪。今にも泣き出しそうな空、肌寒く手がかじかむ恵まれぬ天候であったが、動植物の果敢な生命活動は、参加者の皆さんに充分春の息吹・自然の豊かさを伝えてくれたと思う。ツノハシバミ、アキタブキ(ふきのとう)の雄花・雌花から始まり、多くの植物の芽生え、アスファルトを突き破るイタドリやササの芽、昨年の18号台風によるトドマツやストロブマツの倒木被害、残雪を貫いて芽を出すカタクリとその生活史、樹間に躍動するエゾリス、クロツグミのさえずりなどを通じて、普段と違った自然を観てもらい、認識を新たにしてもらったのではないかと思う。(大嶋 正紀記)

白老町 ポロト湖 05年 5月 3日

参加者14名 指導員10名 晴 NHK

<ミズバショウと春の息吹>

連休の続く中での観察会であった。天候に恵まれたが、今年は春が遅く、期待のミズバショウもイマイチであったが、日中は気温も上がったせいか、キタコブシが開花し、参加者には満足していただいたと思う。

残念なことは一般参加者の1人(女性)が、観察会中に転倒して右腕手首の近くを骨折する事故が発生、しかし指導員の適切な判断で救急病院の白老町立病院へ搬送し、連休であるため応急処置をしていただき、本人は大変恐縮していた。6日に苫小牧で手術と決まった。

いつどんな事故が起こるかわかりません。参加者の健康状態にも注意して救急と対応には心配りが大切と思う。(新岡 幸一記)

札幌市中央区 円山公園 05年 5月15日

参加者12名 指導員 6名 雨 NHK

<春に咲く植物>

春の冷たい雨の中、雨にも負けぬ大勢の花見客をさけ、今年も坂下グランドから太師堂のあたりにかけて、主に木の花や、実生を中心に観察会を行いました。

それにしても今年の春の寒さはどうしたことか。いつもなら咲いているはずのイタヤカエデやサワグルミなどの花も、まだ眠ったまま。「いつもの年よりも、季節の感じは2週間から1か月くらい遅れている気がします。」の指導員の言葉に、参加者一同、納得の観察会でした。(山形 誠一記)

札幌市手稲区 手稲山 05年 5月15日

参加者 8名 指導員 6名 雨 読売

<花を見つけに気ままに見て歩き>

天気予報の通り、開始時間には雨となってしまった。

手稲山も同様に雪解けが例年より2週間程度遅く、エンレイソウ、エゾエンゴサクなどが咲いている状況でしたが、参加された方には、十分楽しめたと思います。

会場となった市民の森は、コース案内板も分岐点で新たに設置され、年々整備されてきていますので、安心して散策できます。ただ、昨年の観察会后、クマの糞が発見されていますので、単独行動は控えたほうがよいかもしれません。(高田 敏文記)

苫小牧市 紋別岳 05年 5月21日

参加者 42名 指導員 8名 雨 道新、朝日、苫小牧市広報

<春の紋別岳>

当日は風もなく晴れ、ガスもかからず、たいへんよい日でした。

参加者42名で4班に分け、指導員2名ずつで担当しました。始めから終わりまで班の責任で行動しました。

今回は頂上近くに残雪が多く、危険な地点があったので、初めから頂上までは上れない旨を伝えて受付しました。植物の生育は例年より2週間くらい遅れていましたが、オオバキスミレが一面に咲いているところも見られ、ウグイスの鳴く姿を5分くらいも近くで見られた班もありました。頂上を目指したい気分も若干みられた班もありました。しかし、全体に事故もなく、だいたい満足の様子でした。

この山はあまり高くありませんが、登山の要素もあるので、参加者のそれなりの希望に配慮した班を考える必要もあるのではないかと反省がありました。(谷口 勇五郎記)

札幌市中央区 旭山記念公園 05年 5月22日

参加者 19名 指導員 2名 晴 道新、朝日

<植物や虫とゲームをしよう>「親子・子供」

今年初めてといってもよいほどに、晴れて気温も上がった日曜日、まだ桜の花の残る公園は、子供向け観察会には絶好の舞台となりました。

とはいえ、今年は天候不順で、本物の虫たちや野の花を観察するにはちょっと物足りないため、旭山公園の奥のほうにある「学びの森」と呼ばれる場所で、ネイチャーゲームをまねて、マッチ棒の頭の部分（火のつくところ）を切り取り、緑や茶色など自然に近い色を塗ったものを150本ほど、草の間や、落ち葉の上にまいて、虫に見立てて探させる「カムフラージュ」という遊びをメインに、タンポポの話や、木の成長の話などで観察会を行いました。

参加してくれた子供たちは、小学校3年以下で、話をするにもちょっと難しい部分がありましたが、それでもこちらの質問にも積極的に答えてくれるなど活発な子が多く、主催したこちらでも楽しい観察会でした。（山形 誠一記）

札幌市南区 真駒内保健保安林 05年 5月22日

参加者 25名 指導員 6名 晴 道新

<春の明るい雑木林を散策>

桜山とも言われ、昭和31年の大凶作により薪炭用に伐採されたのと土壌の関係か、樹木が細く総立ちの感じを受ける山でした。植樹は年々行われているようです。

木々の開花を見るのは背が高すぎて難しかったです。

開花：(草木)アカイタヤ、アサダ、イタヤカエデ、エゾムラサキツツジ、エゾヤマザクラ、カラマツ、キタコブシ、ケヤマハンノキ、シラカンバ、ナニワズ、ツノハシバミ、ハウチワカエデ、ヤナギ、レンギョウなど。

(草本)オオタチツボスミレ、セイヨウタンポポ、センボンヤリ、ミヤマスミレなど。

石狩支庁総務課から19日に「新聞で観察会開催を知り、台風の被害による危険なものは片づけましたが、くれぐれも危険の無いようにお願いします。危険な個所を見つけたらすぐにお知らせ下さい。」との連絡を受けました。（須田 節記）

当別町 道民の森 05年 5月29日

参加者 5名 指導員 5名 晴 読売

<春の花咲く森を歩こう>

昨年度も同地域同時期に行った観察会ですが、今年は開花も遅いようで、どのような花に出会えるかと期待に多少の不安も交えて当日を迎えました。

鳥の池、彫刻の森、森林学習センターを經由し、途中小川を傍らに見ながらのコースでしたが、名残のカタクリ、エゾエンゴサク、ニリンソウ始めエゾノリュウキンカ、レンプクソウ、ザゼンソウ、と次

々と姿を見せてくれました。

そして、キバナイカリソウ、フギレオオバキスミレも期待通りに群落をなして咲いていました。ドングリの発芽クイズやユキザサと近似のユリ科植物との見分け方など、当別地区の指導員の説明に参加者は興味深く聞き入りました。

昼食時には、コース途中でも咲いていたオクエゾサイシンを食草とするヒメギフチョウが飛来して、観察会の充実度をさらにアップしてくれました。

(林 迪子記)

苫小牧市 錦大沼公園 05年 5月29日

参加者 18名 指導員 5名 晴 道新、朝日、苫小牧民報、千歳民報 <春の草花をめぐる>

「草花をめぐる」としたテーマで、ゆっくり、のんびりとした観察会となった。参加者全員で和気あいあい、小さなフデリンドウを探し、オオバナノエンレイソウかミヤマエンレイソウかと論じ合う。

錦大沼公園の特筆すべきミツガシワの群落で、可憐な花にしばし足を止め観察した。全体的に天気もよく、一同楽しげに会を終えた。

開催地は木道が多く、列が長くなる。少人数のグループに分けるべきだった。また、参加者から開催時間について強い要望があった。3時間程度では、十分に活動できず、午後も（昼食をはさんで）観察できるようにとのことである。

グループの作り方、開催時間とも今後の課題として検討することにした。（佐々木 昌治記）

札幌市北区 屯田防風林 05年 6月 4日

参加者 17名 指導員 4名 曇 道新

<防風林内を散策し、その歴史や効用を考える>

小雨の心配があったが、開始時には丁度良い曇天となった。特にPRもしなかつたので、どの程度参加があるかと不安にも思っていたが、17名はまずまず。

屯田西公園でミーティング後、そこから約1.3km防風林内を散策（美しい日本の歩きたくなる道500選の1つ、札幌で唯一選ばれた道）。

後は外側を廻って折り返す行程。今回は防風林の歴史とその役割、樹木3種（ポプラ・ヤチダモ・シラカバ）草花3種（オオハンゴンソウ・オオウバユリ・オオバナノエンレイソウ）鳥5種（チゴハヤブサ・シジュウカラ・ハシブトガラ・ムクドリ・コムクドリ）を重点的に観察することにした。が、チゴハヤブサは観られなかった。今回観察して思ったことは、防風林内のエゾタンポポの保護とその育成を是非我々で行い、屯田防風林を本道一のエゾタンポポの群落地にしたいということである。我々北区住民では是非実現してみたい。屯田防風林の観察は今後も実施予定。（澤田 八郎記）

札幌市豊平区 森林総研 '05年 6月 5日

参加者 31名 指導員 5名 晴 道新、朝日

<森林総研の初夏を歩く>

例年より十日近く季節が遅れ、この時季に咲いているはずの、ヒメイズイ、コンロンソウ、クゲヌランなどは花もなく、残念でしたが、その代わり、いつもなら咲き終わってしまっているミヤマザクラ、オオバナノエンレイソウ、ニリンソウなどの見事な群落を観察することができました。

出発時にはぐんぐん気温も上がってきましたが、エゾハルゼミの声が昨年よりも心なしか元気がなく、雪融けの遅れがセミにも影響を与えていることを感じました。(畑中 嘉輔記)

苫小牧市 ウトナイ湖 '05年 6月 5日

参加者 22名 指導員 4名 晴 道新、朝日、苫小牧民報、千歳民報

<初夏のウトナイ湖>

始まる頃には曇りで肌寒く、また天気予報が外れたかなと思いました。始まってガスがかかって小雨でもきそうな様子でしたが、まもなく晴れて暖かくなってきました。

22名を3班に分けて行動しました。7~8人というのは1つの班としてちょうど良い人数です。指導員としても責任を持って案内できるし、参加者にとってもきちんと聞けるし、質問も出来る体制なわけです。

エゾノコリンゴは今年はまだつぼみで、帰りに2~3個咲いていた程度でしたが、一面にベニバナイチヤクソウのあるところや、森林ではエゾハルゼミの合唱により、野鳥の声が聞こえなくなりました。草原にでると、オオヤマフスマやところどころにシロバナスマシ、コヨシキリ、ノビタキなどが見られました。参加者の感想を聞くと、満足して帰ったような様子でした。(谷口 勇五郎記)

石狩市 はまなすの丘公園 '05年 6月11日

参加者 7名 指導員 4名 曇 道新

<はまなす咲く初夏の石狩浜を散策しよう>

石狩浜海浜植物保護センターとの共催で行われた。保護センター受付分27名(うち子供4名)で計34名の参加。保護センター職員も加わり5名で指導にあたる。

参加者を6・7名の5つのグループに分けた。グループ分けに少々時間を要してしまった。1グループの人数が少ないのでガイドし易かった。いつもより30分長く時間設定をしたので、余裕をもって観察できた。

当日は風が穏やかでよかった。例年、この時期はハマナスが満開になるのだが、今年はポツポツとやっと咲き始めたところ。ハマハタザオがピークを過ぎていたが、一面白く覆っていた。ハマエンドウの紫もよかった。最後のイソスミレが木道の下で咲いており、エゾスカシユリのオレンジがきれいだった。ハマニンニク開花。石狩川の川っぶちでハマナスとハマエンドウの地下茎を見たり、砂浜で流木をひっくり返して、虫を探したりもした。(安田 秀子記)

札幌市豊平区 平岡公園 '05年 6月12日

参加者 13名 指導員 3名 晴 読売

<人口湿原の変わる様子を観察>

朝から小雨が降ったりやんだりの中スタートしました。人口湿地の植物は優先順位の交代が激しく2年前のワタスゲからサギスゲに代わりミツガシワは自分の好きな方へ徐々に移動しモウセンゴケが分布増大等々、毎年様子が変わる湿原です。

モウセンゴケはフィールドスコープで観てもらいたヌキモはルーペで観察しました。上空にはえさ運びに忙しいアオサギ、目先低空をカワセミが・・・トドマツの幹の穴からはヒナの声が聞こえます。遅れていたエゾハルゼミもやっと元気に鳴き皆、忙しい初夏の1日でした。(佐藤 佑一記)

札幌市中央区 藻岩山 '05年 6月19日

参加者 30名 指導員 4名 曇

<もっと藻岩山>

今年も、エゾノタチツボスミレ、マムシグサをメインに、エゾタンポポ、オオハナウドなどを詳しく観察し、特にマムシグサについては資料を作成し、雄株と雌株の見分け方など細かく観察しました。

昨年台風による倒木被害のすごさに驚き、倒れてもなお花を咲かせる植物の強さに感動する。倒れなければ高いところに咲くために、あまり観る機会のないオニグルミの雌花をまじかに観察できたのは、参加者の皆さんにとっても嬉しい体験だったのではないのでしょうか。

あまり花の多くない時期に、昼食をはさんで4時間という観察会は、時間配分や歩くペースなど、難しい面もありますが、時間がたっぷりある分一つ一つの花をじっくり観察してもらえるので、やりがいのある観察会と思っています。(山形 誠一記)

恵庭市 カリンバの森 '05年 7月 3日

参加者 15名 指導員 6名 晴 道新

<カリンバの森 観察会>

今回で2回目になるカリンバの森の観察会でしたが、恵庭の指導員らの諸事情により下見を2人でしか出来ませんでした。また、当日は私ひとりの解説となり、15名の参加者に行き届いた説明が出来たかが不安でしたが、解散時に「勉強になりました」の一声で安心しました。

また子供が一人参加していましたが、子供用のプログラムを考えていなかったもので、ちょっと困りましたが、ヒメスイバで10円玉をこする実験で興味を示してくれました。

今後は他の指導員との打ち合わせを密にし、子供用のプログラムも検討してゆきたいと思います。

前日の下見のときは草刈が行われていみせんでしたが、当日は草が刈られていて見ることの出来ない植物もありました。(小林 英世記)

札幌市清田区 平岡公園 '05年 7月10日

参加者 4名 指導員 2名 雨 道新

<人口湿原の変わる様子を観察>

朝から雨粒が大きくなったり小さくなったりです。集合時間が「道新」で9時30分（当会予定表は10時30分）と紹介されたため、お一人でしたが待っていただき、定刻にこじんまりとスタートしました。

今年はオニノヤガラ、モウセンゴケ、シャクジョウソウなどが多く目立ちます。雨のため先週から始まったオニヤンマの脱皮を見てもらえず、ちょっと残念でした。（13日行ったツリーウォッチングでは4匹見てもらいました。）来年は何とか見てもらいたいと思っています。（佐藤 佑一記）

札幌市南区 真駒内川 '05年 7月17日

参加者 3名 指導員 7名 曇 道新、読売

<川の生き物たち>「親子・子供」

親子一家族の参加者でしたが、ゲーム（ミステリーアニマル）を楽しんだ後、川の中へ。ポイントを変えながら水生昆虫（カゲロウの仲間、トビケラの仲間）、魚の仲間、その他の生き物を網で掬い取り、水槽や顕微鏡を使い観察した。サケ科学館職員の好意で、投網の実演をしていた

だき、普通の網では捕獲困難なヤマメ（サクラマス）も観察することが出来、一同感激。取った魚たちを川へ帰し観察会を終了した。

（澤田 久美子記）

札幌市中央区 円山公園 '05年 7月24日

参加者 19名 指導員 4名 晴

<夏の円山に登ろう>

恵まれた天候の中、2班に分かれて円山へ登りました。

普段あまり近づいてみることもない、ハエドクソウやヤマゴボウ、ウシタキソウ、ツルニガクサなどの小さな花を、ルーベを使って見ることで、その意外な美しさに触れ、今年の台風が作り出したギャップに出現したキツリフネの群落に自然の営みの多彩さを見、円山には珍しいヤマゲラの営巣に感動し、（本当、円山でヤマゲラは初めて見ました）思わず時間をオーバーしてしまった観察会でした。

ところで昨年からホタルブクロが登山道の脇に咲いているのですが、それって変ですよ。誰かが植えたのだとしたらチョット笑えない冗談です。

（山形 誠一記）

参加者の声

当別町 道民の森 ('05/5/29)

石狩市 石神 美代子

石狩浜に次いで2回目、不安な気持ちで申し込んだ今回の観察会ですが、石狩でお世話になった林さんにお会いして、不安も吹きとびました。道民の森は、期待していたとおり、まさに若葉の季節、花の季節、ガイドして下さった方のおっしゃるとおり、雪解けが遅かった分いろいろな花が咲いている状態でした。

なかでも初めて見るイカリソウや、フギレオオバキスミレの清楚な美しさ、久しぶりに目にするシラネアオイの華やかさ、幼い頃に良く目にしたユキザサ、カタクリ、その他いろいろな花、木、草、さまざまな鳥の鳴き声など、時にユーモアを交えての説明に、あっという間に時間が過ぎて行きました。

お仕事をもちながら豊富な知識でガイドして下さい、当別駅から車で送迎までして下さいした指導員の方（申し訳ありませんお名前忘れてしまいました）、そして林さん、ありがとうございました。これからもこの会にぜひ参加させていただこうと思っております。

札幌市北区 屯田防風林 ('05/6/4)

中央区 千田 浩子

<屯田防風林を散策して>

6月4日、小雨が心配な日でしたが、今年初めての自然観察会でしたので、出かけてみました所一番乗りで感想文を頼まれてしまいました。でも、すてきな半日となりましたので、感じたことを綴りたいと思います。

防風林がこんな所と思っていたのですが、屯田兵が天然防風林を利用しポプラやヤチダモを植えたりして作られたもので、「美しい日本の歩きたくなる道500選」に選ばれ、約3kmあるとのこと全部歩けなかったのは残念でした。

樹木、草花、鳥と詳しく説明していただき、中でもオドリコソウの群落とエゾタンポポの群落がありエゾタンポポがこれだけ残っていることは大発見なので、これからの成長を大切に保護すべきだと皆さんが口を揃えて話し合っていました。私も大賛成です。沢山のことを教わり、楽しいひとときを過ごせたことに感謝いたします。ありがとうございました。

札幌市南区 真駒内川 ('05/7/17)

北区 田井 由紀恵

娘と一緒に川で遊んだのは、今回で3回目ですが、指導員の方に川や川に住む生き物のことを教えてもらいながらというのは、初めてのことでした。

少し不安もありましたが、時間とともに慣れてくると、大学生の方や指導員さんに話しかけたり、深い所では手をつないでもらったり、かなりグロテスクな虫の幼虫を手づかみしたり、娘のいきいきとした表情が見られてとてもうれしかったです。

娘も「今度川遊びする時は、イチゴパック持っていいこうね」と言っていました。夏休みには滝野の川で楽しみたいです。

（参加者の声は p.8 にもあります。）

2005年度 観 察 会(9月17日～'06年1月29日)

下見の日時は車絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観 察 地	集 合 場 所・時 刻	交 通 機 関	下 見	連 絡 先
9月17日(土)	森に秋を探しに行こう (親子、子供特集)	江別市 野幌森林公園 大沢口	野幌森林公園大沢口駐車場 10:00集合～12:00解散	JRバス新札幌駅発 循環バス83番、JR森林公園 駅 徒歩8分、国道12号線翔拓の村入口バス停 循環バス「文教台南」下車、徒歩10分	9/10(土)	横山 武彦 011-387-4960
9月18日(日)	もっともっと藻岩山 (旭山記念公園～慈恵会)	札幌市中央区～南区 藻岩山	旭山記念公園駐車場 10:00集合～14:00慈恵会駐車場で 解散 昼食持参	地下鉄東西線 円山公園/バスターミナル 9:31発 JRバス「旭山記念公園」行き		山形 誠一 011-551-5481
10月2日(日)	エルムの秋	札幌市北区 北海道大学構内	北海道大学正門 10:00集合～12:00解散	JR札幌駅北口、地下鉄南北線、東西線 「さっぽろ」駅より徒歩5分	9/25(日)	須田 節 011-752-7217
10月2日(日)	キノコの不思議をさぐる	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50集合～12:00解散 あれば双眼鏡、ルーペ、図鑑を持参	最寄の公共交通機関はありません (自家用車のみ)	10/1(土)	佐々木 昌治 0144-67-2022
10月9日(日)	木の実と紅葉	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階/バス待合所 10:00集合～12:00解散	地下鉄東西線「円山公園」駅下車		山形 誠一 011-551-5481
10月16日(日)	秋の野鳥や植物観察	岩見沢市 利根別(とねべつ)自 然休養林	利根別自然休養林駐車場 9:00集合～12:00解散 あれば双眼鏡、望遠鏡、図鑑など	JR岩見沢駅前/バスターミナル発 Aコース、Bコース「教育大前」下車 徒歩15分 必要に応じて昼食、防寒着	10/8(土)	佐藤 幸典 0126-23-4415
10月16日(日)	サケの遡上を観察しよう	蘭越町 名駒(尻別川、目名川 合流点付近)	道道267号線 目名川橋付近の駐車 場 10:30集合～12:00解散 長靴持参	公共交通機関はありません(バス路線は廃止) 駐車場あり JR函館本線蘭越駅より約9km (徒歩約2時間、タクシーで約2,000円)		大表 章二 0136-57-5610
10月23日(日)	秋を探そう	札幌市厚別区 大谷地の森公園	地下鉄東西線大谷地駅 1階/バスターミナル 10:00集合～12:00解散	地下鉄東西線 大谷地駅下車	10/20(木)	澤田 久美子 011-891-1962
10月29日(土)	紅葉と木の木の観察 特にアズキナシの果実	札幌市中央区 藻岩山山麓	藻岩山ロープウェイ山麓駅舎前 9:30集合～12:00解散	地下鉄東西線 円山公園/バスターミナル 1番乗り場発 JRバス「環12」乗車 「藻岩山ロープウェイ」駅前下車	10/22(土)	福地 郁子 011-583-3012
10月30日(日)	白鳥(渡り鳥)の観察と 森のお散歩	苫小牧市 ウトナイ湖周辺	ウトナイレイクランド前 (国道36号線沿い) 9:30集合～12:00解散	新千歳空港 9:15発道南/バス 「苫小牧」行乗車「ウトナイ湖」下車 無料駐車場あり 必要に応じて昼食持参	10/23(日)	谷口 勇五郎 0144-73-8912
10月30日(日)	渡り前集結の鳥たち	札幌市東区 モエレ沼公園	モエレ沼公園 東駐車場 9:40集合～12:00解散 防寒の用意	地下鉄東豊線環状通東駅 9:10発 市営バス 「札幌69番」「モエレ沼公園入口」下車		須田 節 011-752-7217
11月3日(木)	不思議な昆虫の生活 (親子、子供特集)	小樽市 長橋なえぼ公園	なえぼ公園「森の自然館」 9:00集合～12:00解散 はかきで申し込み(主に小学生が対象)	小樽駅前より徒歩5分、オタモイ方面行き/バス乗車 「なえぼ公園通」下車 小3以下は保護者同伴		後藤 言行 0134-29-3338
申し込み要領 〒、住所、氏名、TEL、年齢を記入した葉書(家族名電記)で10月31日(月)までに申し込み。〒047-0034 小樽市緑3丁目-12 後藤言行宛						
2006年 1月7日(土)	雪氷観察会 (親子、子供特集)	札幌市北区 北海道大学構内	北海道大学クラーク会館前 10:00集合～12:00解散 定員25名、はかきで申し込み 小3以下は保護者同伴	JR札幌駅北口から徒歩5分 地下鉄南北線さっぽろ駅、北12条駅から 徒歩10分 北大構内は駐車禁止		須田 節 011-752-7217
申し込み要領 〒、住所、氏名、TEL、年齢を記入葉書(家族電記)で申込、1月4日必着。〒007-0840 札幌市東区北40条東9丁目-13 須田節宛 FAX011-752-7217						
2006年 1月15日(日)	冬の野鳥と冬芽の観察	苫小牧市 北大研究林	北大研究林駐車場 10:00集合～12:00解散 必要に応じて昼食持参	JR苫小牧駅前/バスターミナル 市営バス 9:12発 「01 交通部」行き「美園4丁目」下車 徒歩30分(約2.4km) 無料駐車場あり	当日9:00 ～	谷口 勇五郎 0144-73-8912

協議会行事他

年月日	テーマ	観 察 地	集 合 場 所・時 刻	交 通 機 関・内 容	連 絡 先
9月10日(土) ～9月11日(日)	フォローアップ研修 伝える・伝わる 自然観察の実践パート	恵庭市駒場町 恵庭公園周辺の森	10日12:00集合 11日15:00解散	中央バス札幌ターミナル(大通り)10:40発「千歳行き」 中央バス地下鉄福 住駅10:30発「千歳行き」 いずれも「恵庭駅前通」下車、徒歩15分 JR札幌駅11:25発「快速千歳空港行き」、「恵庭駅」下車、駅西口より送迎 自家用車道央道恵庭インターより約15分	中川 晃 0123-28-8927
11月26日(土)	忘年会	札幌市	詳細は後日連絡		須田 節 011-752-7217
2006年 1月29日(土)	救急救命講習会	札幌市	カデル2・7	札幌中央消防署、日本赤十字札幌支部	須田 節 011-752-7217



【事務局だより】

個人情報の保護に関しては、個人情報保護法を十分考慮して、利用目的の通知、個人情報の流出防止などについて会の活動へ反映されるようお願いいたします。

個人的に他団体などから講師、ガイドなどを引き受けることがあると思いますが、会の名称が使用されないことにご注意下さい。また、使用された時は責任を持って相手と交渉し、理事会へ報告されるようお願いいたします。

【理事会だより】

理事会議事録から抜粋

第1回理事会 '05/ 6/20 札幌市環境プラザ研修室1

- ◇ 個人情報保護法。対象外だが同様に取り組む。審議後継続。
- ◇ 観察部作業分担報告。佐々木部長療養中で部長代行選出、山形誠一さん。
- ◇ 指導員車へ相乗り一般参加者の燃費分担分出費請求を却下。会場までの一般参加者の相乗りは原則認めていない。
- ◇ 観察会事故発生と対応について。事故対策書注意事項と対応は本文に掲載。
- ◇ 第16回滝野の集いについて。会報75号に案内掲載済み。
- ◇ 研修部、地方研修会「身近な昆虫へのアプローチ」8/21 小樽長橋なえぼ公園。編集部、会報76号 9/2 発送予定。
- ◇ 酪農学園大学アウトドア口座学生受け入れ要請については、会則から当会では受け入れができない。
- ◇ 北海道市民環境ネットワーク(きたネット)加入は当会名称無断使用の対応が先決により見送り。「協力」削除済み。
- ◇ 道新野生生物基金フォーレストウォッチングは個人的に受諾。当会名称使用断りを野生基金に連絡。削除済み。
- ◇ 講師派遣依頼。・NPO子ども・コムステーション・いしかり(学童保育所)、6/11、7/9、10/15、2/19。
・札幌市厚別中央地区社会福祉協議会、楽しい森の散策「森へ行こうよ」、6/21。

第2回理事会 '05/8/10 環境サポートセンター

- ◇ 個人情報保護については継続審議。
- ◇ 滝野のつどい報告。(会報本文へ掲載)
- ◇ 救急救命講習会予定、'06/ 1/29 かでる2・7、札幌中央消防署、日本赤十字札幌支部
- ◇ 2006年度指導員講習会(日本自然保護協会、北海道自然保護協会、北海道自然観察協議会共催)は、
9月末か10月に札幌市真駒内青少年研修センターで予定の方向
- ◇ 2006年度総会日は4月第2土曜日、札幌市環境プラザ研修室を検討中。
- ◇ 2006年総会後の講演会講師は、
工藤 岳 氏 北海道大学地球環境科学研究所助教授(環境生物学部門・陸域生態系分野)。

会費や寄付は	----->	郵便振替口座	02710-1-8768	北海道自然観察協議会
		----->	会 計	中村 真由美 〒064-0944 札幌市中央区 /Fax 011-614-8365
観察会保険料は	----->	郵便振替口座	2770-9-34461	北海道自然観察協議会観察保険料
		----->	観察会担当会計	引地 輝代子 〒002-8022 札幌市北区篠路2条5丁目8-25 /Fax 011-773-2170
観察会報告書・資料は	----->	観 察 部	山形 誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp	
研究会関係は	----->	研 修 部	後藤 言行 〒047-0034 小樽市緑3丁目2-12 0134-29-3338 E-mail gotoh-genkoh@blue.ocn.ne.jp	
退会、住所変更の連絡他は 事故発生等緊急時は	----->	事 務 局	須田 節 〒007-0846 札幌市東区北40条東9丁目1-13 /Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.ne.jp	
投稿や原稿は	----->	編 集 部	北海道保険保証 011-222-0877 (日・祝祭日は休み) 竹林 正昭 〒099-2103 常呂郡端野町字3区378-3 /Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com	

表紙スケッチ 八木健三



自然観察:2005年 9月 1日 / 第76号 年4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)

発 行 北海道自然観察協議会

編 集 北海道自然観察協議会編集部